

2012年度・公式規則変更予定報

日本アメリカンフットボール協会
競技規則委員会



日本アメリカンフットボール協会競技規則委員会では、現在、2012年秋季公式戦から適用される公式規則の変更を作業中です。

この「2012年度・公式規則変更予定報」は、本年の公式規則変更を予定している主要項目に関し概要を説明したもので、各競技団体の早めの対応を可能にするために発行するものです。本予定報に記載している内容は、今後の作業で変更の可能性があり得るもので、正式には本年7月上旬頃に発表予定の「2012年度・公式規則決定報」で公示します。

2012年度・公式規則変更予定主要項目

2012年度の公式規則変更として予定している主要項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の()内の英数字は、この変更が行われる予定の公式規則の主たる「篇一章一条」を表します。

(1) キックオフ時のキックチームの制限線の変更

- ☆ 従来、キックオフ時のキックチームの制限線は自陣の30ヤードラインであった。
- ★ 本年より、キックオフ時のキックチームの制限線は35ヤードラインとなる。セーフティ後の制限線は20ヤードラインのままである。 (6-1-1)

(2) フリーキック時のAチームのプレーヤーに対する制限の追加

- ☆ 従来、ボールがキックされる時、プレースキック時のホルダーとキッカーを除くAチームの全プレーヤーはボールの後方にいなければならないという規定のみで、後方(自陣のエンドゾーン側)への制限はなかった。
- ★ 本年より、レディ・フォー・プレーの後、キッカーを除くAチームの選手は、制限線から手前5ヤード以内のインバウンズにいなければならない。不正なフォーメーションで、5ヤードの罰則。 (6-1-2)

(3) フリーキック時のタッチバック後のボールの位置の変更

- ☆ 従来、すべてのタッチバックの後は、そのゴールラインを守っていたチームの20ヤードラインにボールはおかれた。
- ★ 本年より、フリーキックがタッチバックになった後は、そのゴールラインを守っていたチームの25ヤードラインにボールはおかれる。その他のタッチバックの後は、従来通り、20ヤードラインのままである。 (8-6-2)

(4) フリーキックをキャッチする機会の追加

- ☆ 従来、キックがグラウンドに触れたときに、キックをキャッチする機会に関する保護条項は終了した。
- ★ 本年より、フリーキックにおいて、キック直後にボールがグラウンドに一度だけ触れて、そのまま空中に上がったボールをリカバーしようとするプレーヤーは、キックされたボールをキャッチしようとしているプレーヤーと同様に保護される。(6-4-1-e 新規)

[参考] キャッチ: 空中にあるボールを確保すること。

リカバー: ボールがグラウンドに当たった後のボールを確保すること。(2-4-3)

(5) 腰より下のブロックの制限の追加

- ☆ 従来、キックを除くスクリーン・ダウンにおけるチーム確保の変更の前、Aチームのプレーヤーによる、自陣のゴールラインの方向への腰より下のブロックに関する規定はなかった。
- ★ 本年より、キックを除くスクリーン・ダウンにおけるチーム確保の変更の前、ニュートラル・ゾーンを越えた地点にいるすべてのAチームのプレーヤーは、自陣のゴールラインの方向への腰より下のブロックをしてはならない。(9-1-6)

(6) 腰より下のブロックの制限を受けるプレーヤーの定義の変更および制限の追加

- ☆ 従来、キックを除くスクリーン・ダウンにおけるチーム確保の変更の前、攻撃側の制限を受けるプレーヤーの定義は以下のとおりであり、ノースサウス・ラインあるいはスナップ時の自分に近いサイドラインの方向への腰より下のブロックは許されるという規定のみであった。
 - a) 中央のラインマンから7ヤードより離れているスクリーン・ライン上のプレーヤー
 - b) バックフィールドにいて、タックル・ボックスの外側に体の一部が出ているプレーヤー
 - c) モーションをしているプレーヤー
- ★ 本年より、b)および c)の定義を以下のとおりに変更する。また、b)で定義される内側のエリアで、制限を受けるプレーヤーによる腰より下のブロックは、いかなる方向に対しても禁止という制限が加わった。
 - b) タックル・ボックスの外側に完全に体が出ているか、スナッパーから2番目のラインマンのフレームの外側に完全に体が出ているバック
 - c) スナップ時にモーションをしていて、レディ・フォー・プレーからスナップまでの間に上記 b)で記載された外側の位置にいたことがあるプレーヤー(9-1-6)

(7) Bチームのプレーヤーによる腰より下のブロックの制限の変更

- ☆ 従来、キックを除くスクリーン・ダウンにおけるチーム確保の変更の前、ボールがニュートラル・ゾーンを5ヤード越えるまでの間は、Bチームのプレーヤーによる腰より下のブロックは許された。(2011年8月17日発行の公式規則公報14号、No.3)
- ★ 本年より、キックを除くスクリーン・ダウンにおけるチーム確保の変更の前、ニュートラル・ゾーンの前後5ヤードでサイドラインまで延長されたエリアのみで、Bチームのプレーヤーは腰より下のブロックをしてもよい。ただし、従来同様に、バックワード・パスを受けようとする位置にいる攻撃側のプレーヤーに対して、腰より下のブロックをしてはならない。また、ボールあるいはボールキャリアに向かおうとする場合を除き、ニュートラル・ゾーンを越えた位置にいるAチームの有資格レシーバーに対して、腰より下のブロックをしてはならない。(9-1-6)

(8) プレーヤーのヘルメットが脱げたときの規定の追加

☆ 従来、ボールキャリアのヘルメットが完全に脱げた場合、ボールデッドとなるのみで、それ以外のプレーヤーのヘルメットが脱げた場合の規定、脱げた後の規定等はなかった。

★ 本年より、プレーヤーのヘルメットが完全に脱げた場合、以下の規定が追加となる。

- A. ダウン中にプレーヤーのヘルメットが完全に脱げたとき、相手側の反則の結果による場合を除き、ダウンが終了したときに計時停止となり、当該プレーヤーは最低1ダウンは試合から離れなければならない。ヘルメットが脱げたことのみによって計時停止となった場合、次の条件が加えられる。
1. 前後半残り1分以上で止まった場合、レフリーのシグナルでゲーム・クロックは計時開始となる。プレー・クロックは攻撃側であれば25秒、守備側であれば40秒にセットされる。
 2. 前後半残り1分未満の場合、相手側のチームは「10秒減算」を選択することができる。その場合、プレー・クロックは25秒にセットされ、レディ・フォー・プレーで計時開始となる。当該チームにタイムアウトが残っていれば、タイムアウトを使うことで「10秒減算」を免れることができる。
- B. ライブボールでボールキャリア以外のプレーヤーのヘルメットが脱げたときは、当該プレーヤーがそれ以上プレーに参加することは、パーソナル・ファウルの反則となる。このプレーヤーは明らかにプレーから離れたプレーヤーとして扱われる。
- C. ダウン中に意図的にヘルメットを脱ぐことはスポーツマンらしくからぬ行為の反則となる。
- (3-2-4-c-12 新規、3-3-2-e-16 新規、3-3-9 新規、9-1-17 新規、および 9-2-1-a-1-i 新規)

(9) パント時の守備側のリーピングの制限の追加

☆ 従来、パント時の守備側のプレーヤーのリーピングに対する規定はなかった。

★ 本年より、パントをブロックするために、守備側のプレーヤーはタックル・ボックス内で相手プレーヤーを飛び越えようとしてジャンプしてはならない。パーソナル・ファウルの反則となる。

1. 相手プレーヤーを飛び越える意図なく、垂直にジャンプすることは反則ではない。
2. 相手プレーヤーの間隙(ギャップ)を通り抜けようとする行為は反則ではない。(9-1-11-c 新規)

(10) キックをキャッチする機会の妨害となる条件の追加

☆ 従来、インバウンズにいるレシーブチームのプレーヤーに対するキックをキャッチする機会の妨害について、Aチームのプレーヤーが侵入してはいけない領域は定められていなかった。

★ 本年より、レシーバー(リターナー)がボールにタッチする前に、Aチームのプレーヤーが、レシーバーの両肩から正面1ヤードのエリアに侵入した場合も、キックをキャッチする機会の妨害の反則となる。疑わしい場合は、反則である。(6-4-1)

(11) 不正なバッティング、不正なキッキングの罰則距離の変更

☆ 従来、不正なバッティングおよび不正なキッキングの罰則は15ヤードであった。

★ 本年より、不正なバッティングおよび不正なキッキングの罰則は10ヤードとなる。なお本項目は、2011年度・公式規則変更決定報で、2011年度・NCAA 公式規則変更項目として参考掲載した項目である。(9-4-1、2、3、4)

以上